

国際ホテル旅館

INTERNATIONAL HOTEL MANAGEMENT

2022.9/20 第527号

発行所:国際ホテル旅館 〒104-0061東京都中央区銀座8-15-15(株)プライダル産業新聞社内

発行人:米谷美咲 年間購読料11,000円(消費税込)

TEL 03(6226)9580 FAX 03(6226)9578

<https://ihr-news.jp>

スマート観光DX

新時代のスマートホテル最前線

第2回【スマート設備と建築について】

株式会社タップ ホスピタリティサービス工学研究所 副所長 藤原猛



■著者プロフィール

「変なホテル ハウステンボス」開業準備室長・初代総支配人として、IT やロボティクスによるホテルマネジメントを一から企画・構築した。

現在はタップ ホスピタリティサービス工学研究所の主要メンバーとして、全国のホテルや旅館、観光施設などで、経営・業務管理のIT化・IoT化、経営改善をサポートしている。

この連載では宿泊施設のDX化をテーマに、ロボット等の自動化技術の話題を中心にお伝えしていますが、ここで少し視点を変えて自動化技術の設備に必要な建物づくりを取り上げたいと思います。

繊細な技術の集合体である建物

建築工事の中身を大きく分類すると「鉄、ガラス、コンクリート」で成立します。もちろん、頑丈な基礎を築くために地中深くに長い杭を打ち込むなど、細かく話すと非常に繊細で膨大な技術の塊で

あることは間違いなく、そこには多くの人手にしか解決できない職人技が欠かせません。

そこに最近では、ロボット、センサー、生体認証を利用したスマート設備が深く関わるようになりました。ここで苦労するのが、こうしたスマート設備を実際に施工する人たちに理解してもらうことです。

前回の本稿でも紹介した通り、私たちは現在、沖縄県で観光産業に特化した「研究開発施設」の建設を進めていま

す。建物全体に壮大な開発テーマが有るため、建築工事の段階から、従来では常識と考えられていた事が通用せず、技術的・理論的には成り立つテクノロジーでも実装が難しく、困難な事が日常的に発生していました。建築工事の現場では毎日の様に検討と施策を繰り返しています。

例えば、建物内では無軌道の自走式ロボットを運用するためにバリアフリーを実現すると同時に、多くの自動ドア

ロボットの導入・運用を妨げる “時代遅れ”な建物の設備

を設置する必要があります。従来の自動ドアは赤外線センサーで物体を検知すると開き、通過後は自然に閉まります。一見、機械的な制御が成立しているように思うかもしれませんが、実はこれは制御されているとは言えないのです。

物体を自然に検知する事が前提となり、本当にロボットが目の前に居るのか等、一体どこで確認するのでしょうか。よく考えてみれば、偶然のタイミングに頼っていると言っ

ても過言ではありません。ロボットを運用する上では、偶然や偶々といった考え方は、安全性の観点からも好ましいものではありません。発展途上の段階ではそれも致し方ないと言われていたことでも、今はもう確実性を求める段階にきています。

私も、昨年からは建築工事の過程で不思議な体験をしました。先ほど申した通り、ロボットや一部のセンサーが発達していても、それらを制御し

ようと考えられる自動ドアは存在せず、全く進化が見られない

のです。実際にメーカーに問い合わせたりもしたのですが、その気があるとは言いがたく、このままではどんなに自動化技術が進化しても、実用性には乏しく、大きな壁を感じています。日本国内には先進的な技術の開発や発明がありますが、一部だけが飛躍的に進化するのではなく、実用化に必要な周辺技術においても進化の必要性がある、ということに目を向けるべきだと私は考えます。